

今日的な課題への対応

特別支援教育の充実

発達障がいを含む障がいのある子どもたちの自立や社会参加に向け、主体的に取り組めるよう、一人ひとりの教育的ニーズを把握していきます。その能力を最大限に伸ばすため、適切な指導及び必要な支援を全ての園・学校において行います。また、今年度設置された発達支援室とも連携し、更なる特別支援教育の充実を図ります。

道徳教育・人権教育の充実

子どもたちが自他の生命の尊重、自尊感情、他者への思いやりや郷土に対する誇りや愛情などの道徳性を養うとともに、自分の目で見て、自分で考え、判断し、適切に行動する力を育てていきます。また、人権フォーラムなど、子どもたちの主体的な活動を通して、人権問題を解決する意欲と実践力を育てていきます。さらに、「東員町子どもの権利条例(仮称)」づくりにも、子どもたちと共に取り組んでいきます。

情報モラル教育の充実

各教科指導の中で継続的に情報モラルに関する話題を伝え、加害者にも被害者にもならないよう、正しい使い方などを含め、自他を守る意識や態度を育てていきます。

国際化教育の充実

世界に学び、広い視野で物事を考えることのできる子どもを育てていきます。特に英語教育の充実を図り、グローバル化する社会に対応できる力を育てていきます。

安全教育の充実

子どもたちが自然災害や犯罪、事故などの危険から自ら命を守るために、危険予測の能力を高め、危機回避の力を身につけられるよう、実践的な災害教育を含めた安全教育の充実を図ります。

キャリア教育の充実

子どもたちが自己理解を深め、自己有用感(自分の属する集団の中で、自分がどれだけ大切な存在であるかということをも自分自身で認識すること)を獲得し、自己実現と社会の発展に貢献する意欲と態度を育てていきます。

環境教育の充実

地球温暖化をはじめ、様々な環境問題が深刻化する中で、園・学校内外における自然体験活動を促進し、生命及び自然を大事にしようという心を育てていきます。また、人間と環境との関わりについて正しい認識に立ち、緑の地球を未来に残そうという態度を育てていきます。特に、「リサイクルの森」見学や、東員町が取り組もうとしている可燃ゴミ量を減らす「^{びつがみ}雑紙回収」について学習したり、得た知識や情報をまとめたりするなど、身近なところにある環境教育の充実を図ります。

食育の充実

子どもたちが生涯にわたり健康で生き生きと生活するために、食に関する正しい知識を習得するとともに、食に興味を持ち、望ましい食生活を実践できるよう、家庭・地域と連携した食育の充実を図ります。

『誰もが安心でき、誰からも信頼される園・学校にむけて』

日々変化する子どもたちの姿や、保護者・地域の要望などを的確にとらえ、子どもたちが主体的・創造的に活動できるよう、特色ある園・学校づくりをめざします。そのために、園・学校評価から明らかになった成果と課題や、学級や一人ひとりが抱える課題などを、全職員が共有し、今後に向けた方策を検討します。そして、園・学校運営に参画する意識や、全ての子どもたちを育てていくという意識を高め、「幼稚園・保育園力」「学校力」の強化に努めます。また、幼保小中一貫教育の創造に向けて、幼稚園・保育園・小学校・中学校の横のつながり縦のつながりを、3つのK(系統性・計画性・継続性)を大事にしなが、より強固なものにしていきます。

エリクソンErikson,E.H(1902～1994年)は、アメリカで長年にわたって人間の心理社会的発達について研究してきた精神分析家です。彼は、人間の成長発達を「知能」「身体」「社会的な人格」の3つでとらえ、とりわけ社会的な人格の発達を重要視しました。なぜなら、数多くの精神分析の実践から、人間は「社会的存在」であることを発見したからです。また、「人間というものは、それぞれの時期に体験して解決しなければならない大切な課題がある。その課題を達成しようとしまいと、人は心理的発達とともに、全ての発達段階を通過していく。ただし、発達課題の成功や失敗は、次の段階の達成に大きく影響を与える。必ずしも成功だけを体験しなくてはならないという意味ではないが、より多くの成功体験を持つことが発達にとって重要である」と述べています。人間の成長・発達には、知能の発達、運動能力の発達など、色々な側面がありますが、彼がいう発達はあくまでも「社会的な人間関係」の発達のことで「社会性」といった方がわかりやすいかもしれません。

策定委員会では、すべての子どもたちが、社会でいきいきとした自分の人生を歩めるためには、重要な3感(基本的信頼感・自己肯定感・自己有能感)を育みながら一人ひとりの「意欲を高める」ことが大事であると考えました。そこで、それぞれの発達段階で、どういふことに気をつけて、どのような課題を消化し、成功体験を積み重ねていくとよいのかなどについて、エリクソンの発達理論を参考にしながら何度も話し合ってきました。そのまとめが、この教育理念版です。

また、本紙には、3つの生きる力(確かな学力・豊かな心・健やかな体)の育成として、園・学校での保育・教育に加え、保護者のみなさんに心がけていただきたいことや、今日的な課題についても明記しました。この先10年を見据えた「東員町教育理念」をみなさんと共有し、共通の取り組みを進めたいと思います。

私たちは「東員町の保育・教育という船に乗った子どもたちを誰一人たりとも落ちこぼさない」という強い決意のもと、ここに16年一貫教育プランを策定します。

平成25年4月 16年一貫教育プラン策定委員会

東員町教育委員会事務局学校教育課

〒511-0251 東員町山田1700 TEL: 0594(86)2815 FAX: 0594(86)2854

http://www.town.toin.lg.jp/ E-mail: gakkyo@town.toin.lg.jp

参考文献: 児童精神科医・佐々木正美「子どもへのまなざし」福音館書店、「子どもの心が見える本ー再びエリクソンに学ぶ」子育て協会

東員町 16年一貫教育プラン

すべての子どもたちが、社会でいきいきとした自分の人生を歩めるように

「3感 EDUCATION」

基本的信頼感・自己肯定感・自己有能感
子どもたちの「意欲」を高める保育・教育

みんなで育てよう! MY3感・YOUR3感

基本的信頼感とは

「この世に受け入れられているんだ」「信頼してもいいんだ」という気持ちのこと。

自己肯定感とは

「自分は大切な存在なんだ」「自分はかけがえのない存在なんだ」という気持ちのこと。

自己有能感とは

「自分はこんなに得意なことがあるんだ」「頑張れば、きつとうまくいく!!」という気持ちのこと。

東員町教育委員会

東員町は「東員町子どもの権利条例(仮称)」制定に向けて取り組めます!

エリクソンの発達理論

胎児に声をかけてお母さんがリラックスしよう！

胎外の音は聞き取りづらいのですが、お母さんの声はよく聞き取ることができます。誕生の喜びを心待ちにしながら、お母さんのやさしい声をたくさん聞かせます。

また、体をよく動かし、よく話しかけると、お腹の赤ちゃんの動きも活発になります。

胎児期 (-1歳~)

基本的信頼を育てよう！

親とゆるぎない信頼関係を築く時期。この信頼関係を他の人との関係に広げていくのです。子どもの望みに応じていくことで子どもは、人を信じる力を得ると同時に自分を信じる力を得ていきます。一生を通じて社会性の基盤になる力となります。

乳児期 (0歳~)

躰の中で自律性を育てよう！

おもにトイレトレーニングを通じて、自分で自分をコントロールする力、自制心を身につける時期。大切なことを丁寧に繰り返し教えていくことで、自分の衝動を抑え、社会的ルールを守って行動していく力となります。

幼児前期 (1歳~)

遊びを通して自主性を育てよう！

自分で考え行動することを覚える時期。すなわち遊びを通じて、子どものやろうとする気持ちを、大人が大切にしながら見守ることで、未知なるものに対して自発的な探求心を持ち、目的をもって積極的に取り組む力となります。

幼児後期 (3歳~)

勤勉性を育てよう！

仲間とともに、やればできるという体験をして、勤勉に努力することを覚える時期。友だちどうし学び合い、教え合うという経験をすることで達成感や周囲からの承認を得て、社会的に勤勉な人格の基礎となる力が育まれます。

児童期 (6歳~)

自分を客観的に見つめる目を育てよう！

自分はどのような人間なのか、将来どのような生き方をして社会に根づいていくのかを模索する時期。価値観を共有する仲間との交流を通じて、自分を洞察し、内省する力をつけ、アイデンティティ(自我同一性)を確立していきます。

青年期 (12歳~)

東員町教育理念 直面するであろう様々な課題に対し、自ら考え判断し主体的に対応していく力と、他者との関わりの中で、共に支え合い、新しい社会を創造していく力を有する人間の育成 〔三重県教育ビジョンより〕

そのために、下記の3つの生きる力を保護者のみなさんと園・学校で共に育んでいきましょう。また、「安定した子育て、子育て」ができるよう、子どもたちの発達段階に応じた互いの関係づくりを心がけながら、3つの感を育んでいきましょう。

確かな学力の育成

重点：学んだことを生かしながら、課題を乗り越える力を育みましょう。

幼稚園・保育園 [0歳~2歳]

- ・たくさんの愛情を受けて、全身で喜びを表すことができる力(基本的信頼感)を育みます。
- ☆保護者は☆
- ・子どもに躰が身につくよう、子どもの良さを認め、ほめ言葉をかけましょう。

[3歳~5歳]



- ・何事にも興味や意欲を持って挑戦できる力(自己有能感)を育みます。
- ☆保護者は☆
- ・愛情に溢れた家庭の中で、子どもの自己有能感を育てましょう。

小学校

- ・学んだこと(基礎基本)を生かしながら、仲間とともに新たな課題を乗り越える力を育みます。
- ・対話力・活用力を生かしながら、課題を克服できる力を育みます。
- ☆保護者は☆
- ・家庭学習の習慣を育てましょう。
- ・社会性や興味関心を広げる体験の場を用意しましょう。

中学校

- ・目標に向かって、計画的・継続的に学習できる力を育みます。
- ☆保護者は☆
- ・働くこと、社会に貢献することの意義を、身をもって示しましょう。

豊かな心の育成

重点：体験を通して自他や郷土を愛し、大切にできる心を育みましょう。

幼稚園・保育園 [0歳~2歳]

- ・たくさんの愛情を受けながら、探索活動や身体活動を行い、自分の要求を出することができる心(基本的信頼感)を育みます。
- ☆保護者は☆
- ・たくさんの愛情を持って基本的信頼感を育てましょう。

[3歳~5歳]





- ・豊かな体験を通して、豊かな心や感性を育みます。
- ☆保護者は☆
- ・周りに対する優しさや思いやりの心を持った子どもを育てましょう。

小学校

- ・仲間とともに学び合うことに喜びを感じられる心を育みます。
- ・自分に自信が持てる自己肯定感を育みます。
- ・周りからの信頼や期待感に対して、自主的に頑張れる心を育みます。
- ・困っている子に気づき、相手の立場に立ち、考えられる心を育みます。
- ・地域学習や、地域に出かけ人とふれあうことを通して、郷土愛を育みます。
- ・自他の命や、権利を意識し守る心を育みます。
- ☆保護者は☆
- ・社会生活に必要なルールを丁寧に躰けましょう。
- ・子どもと話せる親子関係をつくりましょう。

中学校

- ・自分の将来や生き方について考えられる力を育みます。
- ・仲間との学校生活などを通して、公共性を育みます。
- ・社会の発展に貢献しようとする心や力を育みます。
- ☆保護者は☆
- ・いつでも子どもの相談相手になれるよう心がけましょう。

健やかな体の育成

重点：体力向上に向け、進んで遊ぼうとする意欲や、運動する力を育みましょう。

幼稚園・保育園 [0歳~2歳]

- ・親や保育者に見守られながら、自分から楽しんで探索活動や身体活動ができる力(自己有能感)を育みます。
- ☆保護者は☆
- ・子どもの探求活動や身体活動に関わりながら、見守りましょう。

[3歳~5歳]




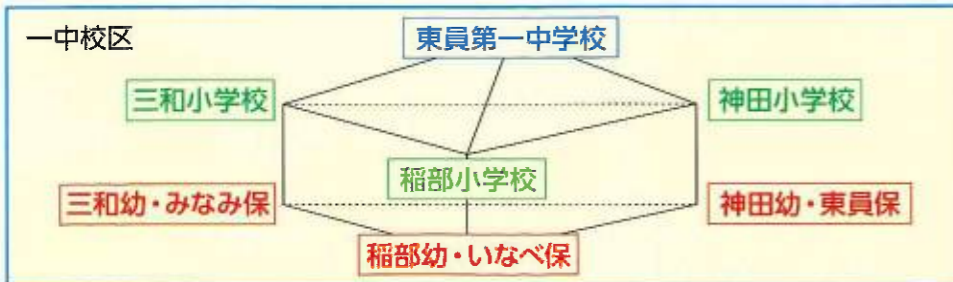
- ・よく食べ、よく寝て、よく遊ぶ習慣を身につけます。
- ☆保護者は☆
- ・健康な心と丈夫な体の子どもを育てましょう。

小学校

- ・規則正しい生活習慣と、進んで運動したり外遊びをしたりする習慣を身につけます。
- ・規則正しい生活を送りながら、進んで体力をつけようとする力を育みます。
- ☆保護者は☆
- ・子どもに規則正しい生活を習慣づけましょう。
- ・子どもに外遊びや、友だちとの遊び、運動をたくさんさせましょう。

中学校

- ・規則正しい生活習慣を確立し、体力をつけようとする力を育みます。
- ・部活動や社会体育への参加を通して、体力や運動能力を育みます。
- ☆保護者は☆
- ・子どもが規則正しい生活習慣を崩さないよう見守りましょう。
- ・適度な運動を奨励しましょう。

縦糸と横糸でつむぐ(協力・協働・連携)2つの校区

幼保小中一貫教育

この先の10年間において3つのKを大事に一貫教育を創造していきます！

系統性 ↔ 計画性 ↔ 継続性

